

## 4.建設計画

### (1) 基本方針

- ①一次医療を担う病院として、地域の人々が気軽に訪れ、安全で快適な施設をめざします。
- ②利用者にもスタッフにも解り安いシンプルな平面構成をめざします。
- ③時代の変化に伴う新たな町民要望、医療技術・医療行政に対応して、柔軟に増改修できる施設づくりをめざします。
- ④誰にでも使いやすく安全な施設をつくります。
  - ・病院を訪れる人にも、入院患者している人にも、そしてこの施設で働く人にも使いやすい快適な施設をつくるために、ユニバーサルデザインの考え方を導入します。
- ⑤諸室の有効利用が可能な施設をめざします。
  - ・患者のアメニティとスタッフの働きやすさに配慮し、スタッフとの話し合いをとおして使用時間帯に配慮した部屋の兼用と可変性の導入により、諸室の利用率を高め、適切な規模による効率的な運用が可能な施設をめざします。これにより、運用コストの縮減を図ります。
- ⑥経営に貢献する施設として、コストバランスがよく、ライフサイクルコストを縮減した施設をつくります。
  - ・事業費全体だけでなく、建設費についてもコストバランスのよい施設をつくります。
  - ・近年の病院は、医療機器の高度化に伴い、工事費に占める設備費割合が増加しています。しかし、維持管理費や機器の交換に多額な費用が必要な機器、コンピューター制御に過度に依存した設備システムの作用によって、トラブルの度に、高度な技術力が必要になり、解決のために時間と費用が必要になります。こうしたことへの配慮を含め、コストバランスがよく、ライフサイクルコストを縮減した施設をつくります。
- ⑦環境対応に配慮した施設をつくります。
- ⑧災害に配慮・対応した施設をつくります。
  - ・ハザードマップによると、敷地は地震による津波による浸水の対象外ですが、興部川の氾濫時は、50cm未満ですが、浸水が想定されています。この対応として、1階の床の高さは現況敷地より、50cm以上高く設定します。
- ⑨周辺環境に配慮し、建物のデザイン・地場産の活用に努めます。